

# トビウオ通信 (R4 第3号)

<https://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

## 《令和4年度上半期浮魚中長期漁況予報》

2021年度第2回対馬暖流系マアジ・さば類・いわし類長期漁海況予報（令和4年3月28日発表 国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所（以下、水産資源研究所）より、山陰沖のまき網漁業が対象とする主要浮魚の令和4年度上半期（4月～9月）の中・長期的な漁模様の予測をします。

### 山陰沖における漁況(来遊)予報〔令和4年度上半期(4～9月)〕

マアジ:前年並みか前年を下回る      マサバ:前年並みか前年を下回る

マイワシ:前年を上回る

ウルメイワシ:前年並み

カタクチイワシ:前年を下回る

※本文中で「上半期」は4月～9月、「下半期」は10月～翌年3月（令和4年3月は速報値）、  
「平年」は過去5年（平成29年～令和3年）の平均値、「前年」は令和3年度上半期を示します。

### マアジは前年並みか前年を下回る

#### 東シナ海～日本海の漁況

鹿児島県から山口県までの沿岸域における令和3年11月～令和4年1月の漁獲状況は、前年・平年並みでした。

島根県の中型まき網によるマアジの漁獲量は平成17年度から平成30年度にかけて、約2万～4万トンで推移していましたが、直近3年は減少傾向にあり（図1）、令和3年度下半期では2,170トン、前年同期（3,293トン）の66%、平年同期（4,614トン）の47%でした。

#### 今後の予報

水産資源研究所の予報では鹿児島県から山口県における今後（4月～9月）の漁況は、沖合域で前年・平年並み、沿岸域で前年・平年を上回ると予測されています。山陰における今後の漁況（4月～9月）は、漁獲の主体となる1歳魚（大きさ15～20cm：令和3年生まれ）と2歳魚（大きさ

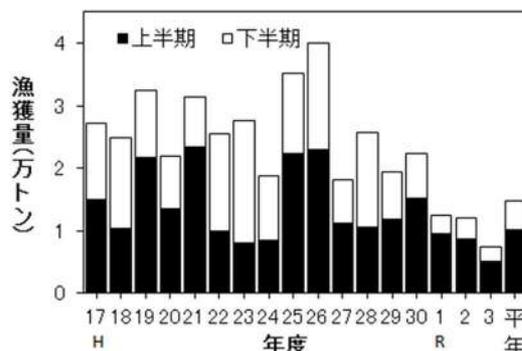


図1. 島根県の中型まき網によるマアジ漁獲量の推移（平年はH29～R3の平均値）

20～25 cm：令和2年生まれ)の山陰沖への来遊状況と、夏季以降漁獲対象となる0歳魚(大きさ5～15 cm：令和4年生まれ)の加入状況によって決まります。1歳魚の資源水準は、山陰沖での直近の漁獲状況とマアジ新規加入量調査<sup>※1</sup>の結果(図2)から前年並みかやや下回ると予測されます。また、2歳魚の資源水準は前年並みとされています。0歳魚の資源水準を予測するのは困難ですが、東

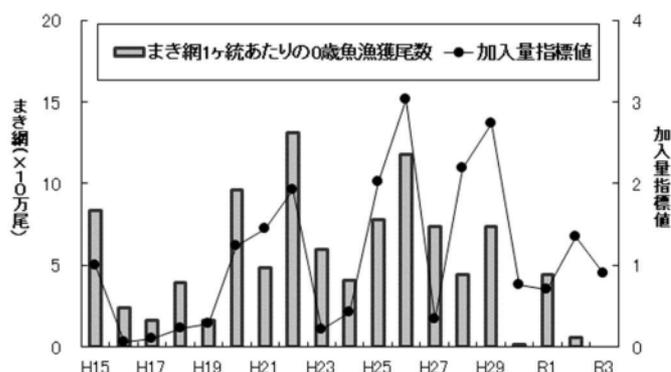


図2. マアジ新規加入量調査による加入量指数<sup>※2</sup>と6月～12月におけるまき網(境港)1ヶ統あたりの0歳魚の漁獲尾数

東シナ海におけるマアジの稚魚の分布量と高い相関が見られる4月半ばの好適水温帯面積は、令和4年は前年を下回ると見込まれることから0歳魚の資源水準は前年並みか前年を下回ると考えられます。以上のことおよび直近の漁獲動向が低位であることを考慮すると、今後(4月～9月)の来遊量は、前年並みか前年を下回ると予測します。

※<sup>1</sup>マアジ新規加入量調査：マアジ0歳魚の加入量を早期に把握するための調査

※<sup>2</sup>加入量指数：マアジの新規加入量調査においてその年の0歳魚の加入量を数値化したもの。なお、平成15年を1としている。

## マサバは前年並みか前年を下回る

### 東シナ海～日本海の漁況

鹿児島県から山口県までの沿岸域における令和3年11月～令和4年1月の漁獲状況は、前年・平年並みでした。

島根県の中型まき網によるサバ類(島根県で漁獲されるサバ類はほとんどがマサバ)の漁獲量は、盛漁期にあたる下半期の経年変化をみると、平成17年度以降では約3千～2万トンの中で増減を繰り返して推移しています(図3)。平成27年以降は上半期にも漁獲が増加している傾向にありましたが直近3年は1千～5千トンで推移しています。令和3年度下半期の漁獲量は3,157トンで、前年同期(6,383トン)の49%、平年同期(7,118トン)の44%でした。

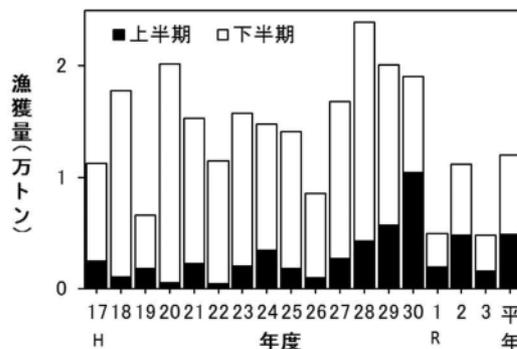


図3. 島根県中型まき網によるサバ類漁獲量の推移(平年はH29～R3の平均値)

### 今後の予報

水産資源研究所の予報では鹿児島県から山口県における今後(4月～9月)の漁況は沖合域・沿岸域とも前年・平年並みと予測されています。山陰における今後の漁況(4月～9月)は、1歳魚(大きさ25～30cm：令和3年生まれ)と2歳魚(大きさ32cm以上：令和2年生まれ)

が漁獲の主体となり、夏季以降は0歳魚（大きさ15～20cm：令和4年生まれ）も漁獲されます。1歳魚の資源水準は、前年並みとされ、2歳魚の資源水準は前年並みか前年を下回るとされています。また0歳魚の資源水準は予測が困難ですが、親魚量は前年と大きく変わらないため前年並みと予測されています。また、鳥取県では、直近の不良を反映して平年を下回ると予測しています。したがって今後（4月～9月）の来遊量は、東シナ海～日本海域の漁況から前年並みか前年を下回ると予測します。

### マイワシは前年を上回る

#### 東シナ海～日本海の漁況

鹿児島県から山口県までの沿岸域における令和3年11月～令和4年1月の漁獲状況は、前年・平年を下回りました。

島根県の中型まき網によるマイワシの漁獲量は、平成17年度～平成22年度は非常に低調に推移しましたが、平成23年度から増加し（図4）、平成26年度を除いて約1万～4万トンで推移しています。令和3年度下半期の漁獲量は18,356トンで、特に3月の漁獲量が1万7千トンと多く、前年同期（4,015トン）の457%、平年同期（9,906トン）の185%でした。

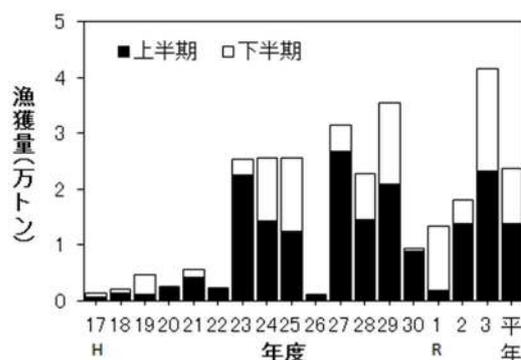


図4. 島根県中型まき網によるマイワシ漁獲量の推移 (平年はH29～R3の平均値)

#### 今後の予報

山陰における今後の漁況（4月～9月）は、漁獲の主体となる1～2歳魚（大きさ15～20cm：令和2年～令和3年生まれ）と夏季以降の0歳魚（大きさ15cm以下：令和4年生まれ）の来遊量で決まります。1～2歳魚の資源水準は前年を上回ると考えられます。また0歳魚の予測は困難ですが、令和3年1月から6月の産卵調査で日本海西部において多数の卵が確認され、親魚量は前年並みか前年を上回ると考えられることから、前年並みか前年を上回る可能性があります。今後（4月～9月）の来遊量は、資源水準が増加傾向であることから好調であった前年を上回ると予測します。

### ウルメイワシは前年並み

#### 東シナ海～日本海の漁況

鹿児島県から山口県までの沿岸域における令和3年11月～令和4年1月の漁獲状況は、前年を上回り、平年を下回りました。

島根県の中型まき網によるウルメイワシの漁獲量は、平成23年度以降増減を繰り返しています（図5）。令和3年度下半期の漁獲量は1,033トンで、前年同期（1,728ト

ン)の60%、平年同期(1,783トン)の58%でした。

### 今後の予報

山陰における今後の漁況(4月~9月)は、1~2歳魚(大きさ18cm以上:令和2年~令和3年生まれ)と夏季以降の漁獲に加わる0歳魚(大きさ5~15cm:令和4年生まれ)が漁獲の主体となります。1歳魚の資源水準は前年並みとされています。0歳魚の資源水準を予測するのは困難ですが、産卵量調査の結果より前年並みと考えられています。以上より、今後(4月~9月)の来遊量は前年並みと予測されます。

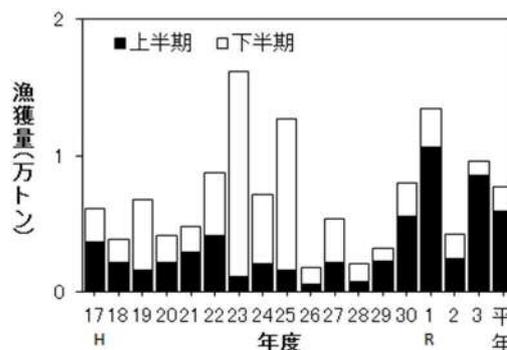


図5. 島根県中型まき網によるウルメイワシ漁獲量の推移(平年はH29~R3の平均値)

## カタクチイワシは前年を下回る

### 東シナ海~日本海の漁況

鹿児島県から山口県までの沿岸域における令和3年11月~令和4年1月の漁獲状況は、前年・平年を下回りました。

島根県の中型まき網によるカタクチイワシの漁獲量は、平成25年度以降減少しています(図6)。令和3年度下半期の漁獲量は777トンで、前年同期(1,594トン)の49%、平年同期(988トン)の79%でした。

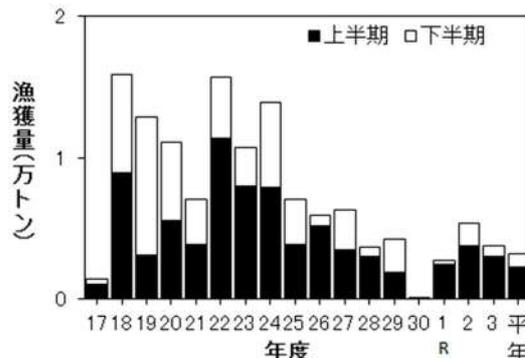


図6. 島根県中型まき網によるカタクチイワシ漁獲量の推移(平年はH29~R3の平均値)

### 今後の予報

山陰における今後の漁況(4月~9月)は、漁獲の主体となる1~2歳魚(大きさ12~14cm以上:令和2年~令和3年生まれ)と夏季以降の漁獲に加わる0歳魚(大きさ5~10cm:令和4年生まれ)が漁獲の主体となります。1歳魚の資源水準は、鹿児島県の令和3年11月~令和4年1月のシラス漁況が前年を下回ったことから、前年を下回ると予測されています。0歳魚の資源水準を予測するのは困難ですが、前年並みと仮定すると、全体の来遊量は前年を下回ると考えられています。また、山口県~鹿児島県の上半期漁況予報は概ね前年・平年を下回るで一致しています。以上より、今後(4月~9月)の来遊量は前年を下回ると予測されます。